

2011年版「インフルエンザの予防と対策」の刊行

研究分担者：小笹晃太郎（財団法人放射線影響研究所疫学部（編集））
研究分担者：入江 伸（医療法人相生会（編集））
研究分担者：大藤 さとこ（大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学（編集））
研究分担者：加瀬 哲男（大阪府立公衆衛生研究所（アドバイザー））
研究分担者：鈴木 幹三（名古屋市港保健所（アドバイザー））
研究分担者：原 めぐみ（佐賀大学医学部社会医学講座予防医学分野）
研究分担者：都留 智巳（医療法人相生会）
研究協力者：葛西 健（WHO西太平洋地域事務局（監修））
研究協力者：福島 若葉（大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学（編集））
研究協力者：前田 章子（大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学（アドバイザー））
研究協力者：石橋 元規（医療法人相生会）
研究協力者：江藤 隆（医療法人相生会）
研究協力者：大西 浩文（札幌医科大学医学部公衆衛生学講座）
研究協力者：小林 真之（大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学）
研究協力者：近藤 亨子（大阪市立大学大学院医学研究科）
研究協力者：白源 正成（医療法人相生会）
研究協力者：洲崎みどり（医療法人相生会）
研究協力者：武知茉莉亜（大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学）
研究協力者：松永 一朗（大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学）
研究協力者：麦谷 歩（医療法人相生会）
共同研究者：井手悠一郎（大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学）
共同研究者：乾 未来（大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学）
共同研究者：佐柳 有香（大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学）
共同研究者：高橋 真治（大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学）

研究要旨

わが国におけるワクチンによるインフルエンザの予防と対策を標準的な手法で行うことを普及するために、インフルエンザの予防と対策の指針として世界標準である米国の予防接種諮問委員会（ACIP）が毎年行っている勧告の2011年版の内容を翻訳して出版した。昨年の勧告で、それ以前の重症インフルエンザの高リスク者を指定して接種勧奨を行ってきたことから、月齢6ヶ月以上のすべての人々に対する普遍的接種（universal vaccination）に変更しており、本年の勧告もそれに引き続いて普遍的接種とした。

A. 研究目的

わが国におけるインフルエンザの予防と対策が標準的な手法によって行われることを普及させる。

B. 研究方法

米国の予防接種諮問委員会（ACIP）のワクチンによるインフルエンザの予防と対策に関する勧告（2011年版）¹⁾を、標記の分担研究者、研究協力者、共同

研究者によって分担して翻訳し、入江、大藤、福島、小笹が分担して訳文チェックなどを行って共同編集し、鈴木、前田、加瀬が各専門領域について点検し、主任研究者および葛西が監修した。

C. 研究結果

2011年の勧告の主要点としては、昨年に引き続き、6ヶ月以上の年齢のすべての人々に対して、毎年接種を2011/12シーズンについて行うこと (universal vaccination) としたことである。また、今年の勧告は例年の別冊として刊行される形態とは異なり、短報的に通常冊子の中の記事として公表された

2010-11年シーズンの3価ワクチンには、昨年と同じ、A/California/7/2009 (H1N1) 類似株、A/Perth/16/2009 (H3N2) 類似株、およびB/Brisbane/60/2008類似株を使用するとされた。6ヶ月から8歳までのこどもの用量については、2010/11シーズンに季節性インフルエンザワクチンを1回以上接種したものは、2011/12シーズンには1回の接種とし、そうでないものは4週間以上の間隔で2回接種することとしてある。

また、卵アレルギーのある人への対応については、以下のように記載されている。

1. 卵への曝露による反応が蕁麻疹のみであった人には、次の措置をとりながら慎重にワクチンを接種する。
a) LAIVではなくTIVを用いる。b) ワクチン接種は、卵アレルギーで起こりうる症候に精通している保健医療従事者が行う。c) 接種後少なくとも30分間は、アレルギー反応の徴候に注意しながら観察する。ただし、ワクチンを2回に分割して投与する、皮膚プリックテストを行うなどの、他の措置は不要である。
2. 卵に対して血管浮腫、呼吸困難、めまい、再発性嘔吐などの反応を起こしたことがある人、卵への曝露後にエピネフリン投与やその他の救急医療処置が必要になったことがある人、特に卵への曝露の直後あるいは数分～数時間以内にそのような反応を起こしたことがある人は、卵蛋白に再び曝露することで重篤な全身反応やアナフィラキシー反応を起こす可能性が高い。このような人は、ワクチンを接種する前に、アレルギー反応の取り扱いに精通する医師に紹介し、さらに詳しいリスク評価を行うべきである。
3. すべてのワクチン接種は、アナフィラキシーが起こったときに迅速な判断や治療ができる人員と設備が整った状況で行うべきである。ACIPは、予防接種を実施する者はすべて、所属施設の救急医療体制に

精通するよう勧告する。

4. 本人は卵アレルギーがあると申告しても、実際はそうではないかもしれない。軽く調理した卵(スクランブルエッグなど)を食べても反応が起こらない人は、卵アレルギーでない可能性がある。逆に、卵アレルギーを有する人でも、焼いた製品(パンやケーキなど)に含まれる卵であれば、反応を認めないことがある。卵を含む食品で反応を認めないからといって、卵アレルギーの可能性を除外することはできない。卵アレルギーであるかどうかは、卵や卵を含む食品に対して常に有害反応を示すという病歴や、皮膚や血液で卵蛋白に対する免疫グロブリンE抗体を検査することで確認できる。

5. インフルエンザワクチンに対する重篤なアレルギー反応の既往がある者は、その反応の原因と考えられる成分にかかわらず、接種の禁忌となる。

そのほか、米国では昨年からは、65歳以上の高齢者用として通常量の4倍量(各抗原量60mcg)の製剤が承認されているが、そのほか、18-64歳用として皮内接種用製剤(0.1ml接種)も承認された。いずれも、免疫応答の高いことが期待されているが、それが直接にインフルエンザ疾患の防御効果に結びつくかどうかは不明である。

本翻訳は、(財)日本公衆衛生協会より、2011年版「インフルエンザの予防と対策」として発行した。

D. 考察

本勧告のワクチン適応等は、米国ACIPによるものであり、わが国の予防接種法に規定されているものとは異なるが、インフルエンザワクチン接種の実施における日常の保健医療活動の指針として、学術的に参考とする価値があると考えられた。

E. 結論

米国疾病管理センター(CDC)の予防接種諮問委員会(ACIP)の勧告を翻訳刊行した。本研究は、インフルエンザの予防と対策の標準的な手法の普及に貢献すると考えられる。

文献

- 1) Department of Health and Human Services (DHHS): Prevention and Control of Influenza with Vaccines, Recommendations of the Advisory Committee on Immunization Practices (ACIP),

2010. Recommendations and Reports. Morbidity and Mortality Weekly Report 60 (33), 1128-32, Aug 26, 2010.

F. 健康危険情報

なし

G. 研究結果発表

- 1) 廣田良夫, 葛西健(監修). 米国予防接種諮問委員会 (ACIP) 勧告, インフルエンザの予防と対策, 2011年版. 日本公衆衛生協会:東京(出版予定)

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

III. 研究成果の刊行に関する一覧表

【書籍】

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者氏名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
Kanzo Suzuki	Oral care and aspiration pneumonia.	Nagato Natsume	Manual for oral care	Quintessence Publishing Co	Tokyo	2011	32-4
小笹晃太郎、入江 伸、福島若葉、大藤さとこ、他	インフルエンザの予防と対策	廣田良夫、葛西 健	米国疾病管理センター(CDC) 予防接種諮問委員会(ACIP)勧告、インフルエンザの予防と対策	(財)日本公衆衛生協会	東京	2012	1-66

【雑 誌】

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Uehara S, Sunakawa K, Eguchi H, Ouchi K, Okada K, Kurosaki T, Suzuki H, Tsutsumi H, Haruta T, Mitsuda T, Yamazaki T	Japanese guidelines for the management of respiratory infectious diseases in children 2007 with focus on pneumonia	Pediatrics International	53	264-76	2011
Okada K	Evaluation of ELISA Kit for Detection of pertussis-associated IgG antibodies	Jpn J Med Pharm Sci	65(4)	531-6	2011
Hara M, Hanaoka T, Mizushima T, Honma J, Maeda K, Ohfuji S, Tanaka K, Hirota Y	Diminished immunogenicity to pandemic H1N1 2009 influenza vaccine in subjects with severe motor and intellectual disability	Vaccine	29	8323-9	2011
Nakaya H, Yamamoto T, Takano M, Yamamoto K, Hujikawa Y, Morikawa S, Kase T, Shimotsuji T	Alice in Wonderland syndrome caused by the 2009 pandemic H1N1 influenza A virus	Pediatr Infect Dis J	30(8)	725-6	2011
Ohfuji S, Fukushima W, Deguchi M, Kawabata K, Yoshida H, Hatayama H, Maeda A, Hirota Y	Immunogenicity of a Monovalent 2009 Influenza A (H1N1) Vaccine Among Pregnant Women: Lowered Antibody Response by Prior Seasonal Vaccination.	J Infect Dis	203(9)	1301-8	2011
Hoshi SL, Kondo M, Okubo I	Economic evaluation of vaccination programme of 7-valent pneumococcal conjugate vaccine to the birth cohort in Japan	Vaccine		in press	2012 (予定)
Kobayashi M, Ohfuji S, Fukushima W, Maeda A, Maeda K, Fujioka M, Hirota Y	Immunogenicity and reactogenicity of a monovalent inactivated 2009 influenza A vaccine in adolescents: with special reference to pre-existing antibody	The Journal of Pediatrics		in press	2012
鷺尾昌一、東出俊之、大浦麻絵、丸山玲緒、陣野原庸治、宮地佐栄、垣内英樹、川原田信、近藤亨子、坂内文男、森 満	施設入所高齢者に対するインフルエンザワクチンの効果 －北海道インフルエンザ研究－	臨床と研究	88(3)	367-70	2011
鈴木幹三、山本洋行、矢野久子	在宅医療における感染症の管理と予防に対する今後の展望－行政の立場から－	化学療法の領域	27	2533-40	2011
加瀬哲男	注目されるウイルス感染症と制御対策	防菌防黴	39	291-5	2011
森川佐依子	新型インフルエンザについて	防菌防黴	39	297-306	2011
加瀬哲男	VPD (vaccine preventable diseases) のサーベイランス	総合臨床	60	2198-203	2011
大藤さとこ、廣田良夫	インフルエンザ	総合臨床	60	2275-81	2011
中野貴司	7価肺炎球菌コンジュゲート(結合型)ワクチン	医薬ジャーナル	47(2)	761-7	2011
中野貴司	肺炎球菌, Hib, ロタウイルス	保健師ジャーナル	67(12)	1086-93	2011
中野貴司	肺炎球菌予防戦略の展開～結合型ワクチンの中耳炎予防効果は？	小児耳鼻咽喉科	32(3)	297-304	2011
原めぐみ	インフルエンザワクチンって本当に効くの？	チャイルドヘルス	14	31-5	2011

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
鷺尾昌一、今村桃子、武富正彦、山崎律美、前田一洋、藤澤伸光、渋谷暁春、井手三郎	施設入所高齢者に対する新型インフルエンザ(AH1N1)2009単価ワクチン接種の経験－免疫反応性と副反応－	臨牀と研究	89(2)	235-8	2012
高山直子、鷺尾昌一、小泉由美、橋本智江、泉キヨ子	新型インフルエンザ流行時における北陸地方の高齢者施設のインフルエンザワクチン接種状況	日本老年看護学会誌	15(2)	64-72	2011
豊島泰子、鷺尾昌一、高橋裕明、大熊和行、井手三郎、荒井由美子	三重県の高齢者入所施設における季節性・新型インフルエンザワクチンの接種状況	厚生の指標	58(13)	25-30	2011
高山直子、鷺尾昌一、橋本智江、小泉由美	北陸地方の高齢者施設における入所者および看護・介護職員のインフルエンザ感染とワクチン接種状況	北陸公衆衛生学会誌	38(1)	15-8	2011
高山直子、鷺尾昌一	高齢者施設におけるインフルエンザ予防対策	聖マリア学院紀要	2	59-62	2011

